

花巻市廃棄物減量等推進審議会（会議録）

日 時	平成28年2月17日（水）	午前9時30分～午後0時20分
場 所	花巻市役所本庁舎 3階	302・303会議室
出席者	委員出席者16名	林 俊春委員、高橋文一委員、秋本和宏委員(代理柴村)、岩渕満智子委員、照井富貴子委員、今野秀實委員、熊谷貞夫委員、高橋マサ子委員、下坂誓子委員、岩舘昌子委員、山影儀夫委員、三浦庸子委員、柏崎吉光委員、伊藤幸人委員、伊藤二郎委員、佐々木孝雄委員
	委員欠席者 4名	菅原重子委員、佐藤健一郎委員、川村茂委員、日下明久美委員
	市側出席者 9名	上田市長、熊谷市民生活部長、清水生活環境課長、高橋上下水道課長、山口生活環境課長補佐、高橋清掃センター副所長、松原生活環境課資源循環係長、八重樫主査、富松主事、株式会社日本環境工学設計事務所 竜田修
	報道機関	0名
	傍聴者	0名

（委嘱状交付）

- 次 第
- 1 開 会
 - 2 市長挨拶
 - 3 委員紹介
 - 4 会長互選
 - 5 議事(質疑含む)
 - 第2次花巻市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（素案）について
 - 第2次花巻市一般廃棄物（し尿）処理基本計画（素案）について
 - 6 閉 会

1 開 会

（事務局:山口補佐）それではただいまから花巻市廃棄物減量等推進審議会を開会致します。はじめに上田市長よりご挨拶申し上げます。

2 市長挨拶

（上田市長）今日はお忙しい中、花巻市廃棄物減量等推進審議会にご出席賜りまして有難うございます。そして皆様には審議会の委員としての委嘱状を交付させていただきました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。今回、ご審議頂きますのは、第2次花巻市一般廃

棄物(ごみ)処理基本計画(素案)について、および第2次花巻市一般廃棄物(し尿)処理基本計画(素案)について、この2点であります。よろしくご審議をいただきたいと思っております。今回の計画は今後10年間の非常に重要な計画でございます、この、ごみあるいはし尿の処理については花巻市の市民のお金が相当かかっているということになります。特にごみにつきましては、後藤野に新しい焼却場ができて、これについては、岩手中部広域行政組合が担当するというようになっております。実際の運営は、民間企業に委託しておりますけれども、この運営費用あるいは処理費用については事業系ごみについては、まだ全面的には値上げしておりませんが、基本的には事業者の方々に負担していただくという方向が固まっております。来年度から値上げするというのも考えている訳であります。家庭系のごみにつきましては、この費用は各市町が負担するということになる訳でございますけれども、組合の中では、各市町から出るごみの量によって負担金が変わってくるということが想定されておまして、今後、その各市町間における競争が始まります。この量を少なくする競争がうまく行ったところは、負担金が減ってくるということをよく言っています。その中で花巻市の場合には、家庭系ごみについては現在、無料化、有料化していないということになる訳でございます、どうしてもその結果が大きいと思うんですけども北上市に比べると花巻市のごみの量、家庭系ごみの量については、多い傾向がございます。ただ有料化するという事は地域の方々に負担をかけることとなりますので、直ちにそのようなことにするという事にはならない訳でございますけれども、将来的な方向として、そういうことも検討する必要があるかも知れないというようなことも、今回の素案の中には書いております。直ちに素案が決まるからといって、有料化が決まるという訳ではございませんので、その点は10年間ありますので、審議の中でご意見も聴きながら考えていくこととなります。皆さんにはその分については直ちにご審議頂きたいという訳ではございませんけれども、それも含めて今後、ごみの減量化には努めていく必要があるということについてお話し申し上げて頂きたいと思っております。そして更に言えば、これも決まっている訳ではなくて、今日の素案では可能性の問題として書いてある訳でございますけれども、今回、可燃物の焼却を後藤野に集約するという事になっている訳ですけれども、リサイクルについては、まだ、矢沢に残っています。過去の組合の議論としては、このリサイクルも後藤野に持ってくるということを想定している訳でございます、これについても今後、議論の対象になってくるんだらうと思っております。花巻市として矢沢から後藤野の方に移した方が本当に良いのかどうかについては市民の皆様方の利便性の問題とか、あるいは、矢沢の方を閉鎖した時に、その閉鎖に関わる費用がどうなるかについての分析が未だされていない訳でございます、いろんなことを考えなくちゃならないということはあると思います。これは各市町によって温度差が出てくると思います。北上市は早くやりたいというのが意向のようございまして、遠野市は別の立場があると西和賀町も色んな考えがあるという中で、今後、その件についても検討課題になってきます。これについても今回の素案では、その可能性を検討すると言っておりますので、すぐに結論が

出る話ではないということですが、課題にするということになります。それから最終処分場につきましても、今後、現在の最終処分場、この構成市町、花巻市、北上市、遠野市、それから西和賀町などですけれども、各市あるいはその町で最終処分場がございすけれども、これも早晩、新たな最終処分場の建設というのが課題となってきますので、これも今後10年間の間に話していく必要があるというようなことについても素案の中には書いてあります。これも直ちに皆様に最終処分場について、今、結論を出してくださいという訳ではないですけれども、今後そういう事も出てくる可能性があるということ、それについても皆様にご相談する時期が来るかもしれないということをお話し申し上げたいと思います。そういう事を考えますと、今回の素案の色々な重要なことについて直ちに決めるのではないのですけれども、このように市民の生活にとって重要なことがこの素案の中にあり、盛り込まれている、あるいは言及されているということをお話し申し上げまして、皆様方の忌憚のないご意見をいただきたいと存じます。よろしくお願ひ致します。

(事務局：山口補佐) ここで上田市長は公議の為、退席いたします。

(上田市長) ありがとうございます。失礼いたします。

3 委員紹介

(事務局：山口補佐) 続きまして、清水生活環境課長から委員の方々をご紹介いたします。

～ (事務局：清水課長) 委員の紹介 ～

4 会長互選

(事務局：山口補佐) 次に会長の選出についてであります。花巻市廃棄物減量等推進審議会条例第4条第1項の規定により会長は委員の互選により定めることとなっております。選出の方法につきましては、どのようにしたらよろしいか、皆様にお諮りいたします。

(伊藤幸人委員) ここで初めて顔を合わせる人が多いので、なかなか前に進まないと思いますので、事務局が準備しているのであれば、それを持って承認をしたいと思います。

(事務局：清水課長) はい、有難うございます。今、伊藤委員からご発言をいただきました。事務局と致しましては、花巻市公衆衛生組合連合会会長の柏崎吉光委員にお願いしたいと考えております。よろしいでしょうか？

～ 全会一致で賛成 ～

(事務局：清水課長) ありがとうございます。

(事務局：山口補佐) それでは柏崎吉光委員、会長席にご移動お願いいたします。ここで、本審議会の会長になりました柏崎様にご挨拶を頂戴したいと思います。よろしく

お願い致します。

(柏崎会長) 皆様、しばらくぶりの雪の中、お足元の悪い中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。市長の挨拶の中に全てが盛り込まれていましたが、審議会の内容はですね、詳しく説明していただきました。私からは一点改めてということではございませんが、いずれこの10年間の計画、平成28年度から平成37年度まで10年間の長い計画でございます。そして、国、県、公衆衛生組合と色々な関連の団体がございますが、環境に関しましては、日々、色々変化しております。私共も、十分に皆様のお知恵を拝借して対応していきたいと思っております。今後、皆様のご協力と英知を頂きまして、より良い廃棄物処理基本計画を練り上げて頂き、何とか市の方に答申こぎつけたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。簡単ではございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。

(事務局：山口補佐) それでは議事に入る前に本日の審査会は委員の過半数の出席をいただいておりますので、花巻市廃棄物減量等推進審議会条例第5条第2項の規定により会議が成立していることをご報告申し上げます。なお、本審議会につきましては、花巻市審議会等の公開に関する指針に基づき、会議を公開しておりますのでご了承願います。

5 議事(質疑を含む)

(事務局：山口補佐) それでは花巻市廃棄物減量等推進審議会条例第4条第2項により、議事の進行を柏崎会長にお願い致します。

(柏崎会長) それでは議事に入ります前に花巻市廃棄物減量等推進審議会会長の職務代理者についてでございますが、これは審議会条例第4条第3項によりまして会長が指名することになっておりますので、指名させていただきます。林俊春様をご指名させていただきます。

続いて、会議録署名委員の指名についてであります。花巻市廃棄物減量等推進審議会運営要項第7の2項の規定により会長が2名指名することになっておりますので、ご指名致します。お名前を申し上げます。よろしくお願い致します。本日の会議録署名委員は、高橋文一委員と岩渕満智子委員の2名の方をお願いしたいと思います。

それでは議事に入ります。花巻市一般廃棄物処理基本計画について議題と致します。事務局よりご説明をお願い致します。

～ (事務局：清水課長) 第2次花巻市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(素案)第1章について説明 ～

(柏崎会長) はい、ありがとうございます。ただいま、第1章の1ページから8ページまで事務局の方から説明がございました。これについて皆様のご意見を伺いたいと思います。

(三浦委員) 3ページの図の中で、一般廃棄物の中で、「その他の計画」とありますが、どのような計画が含まれていますか。

(事務局：清水課長) その他の計画につきましては、こちらの方で未だ計画は策定しておりませんが、個別の減量計画ですとか、本当にピンポイントの計画を作って、市民の方に減量と呼び掛けるといことも想定してございますので、この中に含めてございます。

(柏崎会長) 三浦委員、今、事務局の方のご説明がありましたが・・・。

(三浦委員) ちょっとわかりませんが、そのうち、多分、計画が出てくると思います。わかりました。

(柏崎会長) その他、ご意見ございますか？最初ですから、あまり固くならないで、忌憚のないご意見をお伺いしたいと思います。

・・・それでは、まあ、これで終了というのではなくて、また、全体の中で思いついたことがございましたら、その機会にひとつ宜しくお伺いしたいと思います。では、この第1章についてですね。皆様のご了解を得たいと思いますがよろしいでしょうか？(全会一致) どうもありがとうございます。では、第2章、事務局提案をお願いします。

～ (事務局：清水課長) 第2次花巻市一般廃棄物ごみ処理基本計画(素案)の第2章について説明 ～

(柏崎会長) ただいま、第2章の地域の概要ということで事務局から提案がございました。この9ページから14ページの内容について皆様のご意見を伺いたいと思います。

(高橋文一委員) これから10年間の計画を策定する上で、人口の問題が結構大きいのかなという気がしているのですが、この章で、その動向みたいなものを扱わなくていいんでしょうか？

(事務局：清水課長) 現状について、ここでは、表にして皆様にご理解頂くということで第2章にしておりまして、まず、これを基本として、その今後の推計なり推移を見極める為の基礎として載せた部分でありました。

(高橋文一委員) その個別の計画の中では、人口減少を見ながら計画を立ててるといふことですか？

(事務局：清水課長) はい、そうですね。推計等は第3章の方で、また、ご説明申し上げます。

(柏崎会長) ご了解いただきましたでしょうか。

(高橋文一委員) あの、何となく盛り込んでおいた方が良かったんじゃないかという気はします。

(柏崎会長) その辺は事務局で検討をいただければと思います。皆さん、この第2章についてご意見はありませんでしょうか？今、人口が減っているんだけど、ごみの量は減らず、昔みたいな大家族、一世帯当たりが、やっぱり核家族化になっているから、1世帯当たりのごみの排出量が増えているのかなという気がします。その辺どうなのでしょう。林委員、どうでしょうか？

(林委員) 人口問題と一人当たり出すごみの量については、ある程度、読めるんだろうけど、消費社会というか、そういう社会とリンクしているから、やっぱり人口が減っても消費社会の方へどんどんエスカレートして若い人達が増えていくことによって、ごみが減らないんじゃないか。どっかで基本的なことを決めてやらなければいけない。これだけ、今、ちょっと私は産業分野に関して気になるんですが、10%第2次産業が減った中で、10%減ってますよね。平成12年から平成22年の間に。ということは、花巻市から工場とか、そういうものがなくなってしまうと。10%ね。その中で一般も含め、工場系から出る産業廃棄物がどうなっているのかなと、このグラフから非常に気になっているところですが、その辺が、もし、わかれば若干、ご説明いただければ。つかんでいますか。

(事務局：清水課長) 林委員からは、そのようなお話を頂くかなと思ってはいたんですけども、あの産業廃棄物については、このように変わっているというものは、とらえていないところです。ですので、ただその、工場が少なくなっているというお話がありましたけれども、必ずしもそういう訳ではないとは思いますが、多分、法律の規制が強まっていることによって、大きな工場は、それなりにごみの減量に努めていると思いますので、そういった法律に基づいた企業の姿勢というものが変わってきているのだろうとは思いますが、全体的な傾向については、すいませんが把握できていない状況です。

(高橋文一委員) 私が言った36ページにきちんと出てますので、これでよろしいです。

(柏崎会長) 産業ごみとなると、どうしても県とか国になりますよね。まあ、不法投棄にしろ、何にしろ、それは関連がございます。それでご理解いただきたいと思います。第2章について、その他、何かご意見はございませんか？また、そのうち思いついたらご意見賜りたいと思います。では、第2章について皆様の了解を頂いたということで宜しいでしょうか(全会一致：賛成)ありがとうございます。続きまして、第3章を事務局、ご提案よろしくお願い致します。

～ (事務局：清水課長)「第2次花巻市一般廃棄物ごみ処理基本計画(素案)」の第3章1節の説明 ～

(柏崎会長) ありがとうございます。質問に入る前に質問者の方々にお願いですが、ページを明言いただきまして質問に入ってくださいようご協力をお願いします。では、第3章ごみ処理基本計画について15ページから36ページまで、この中について皆さんのご意見を伺いたいと思います。

(照井委員) 29ページ、燃やせるごみの質、紙類とかですが、銀河モールのジョイスに紙類とか新聞、雑誌類を量によってポイントが入る施設がある。地域の資源回収にも出していますが、常時、こういうのがあれば、ただ燃やしてしまうよりも、有効利用していただけるのかなど。

(柏崎会長) それがああ29ページの燃やせるごみについてですね。色々分別して、スーパーさんではそういうものを受け入れてポイントとして、買い物に使うと、そのへんヨーカドーさん、今、その辺は、現状はどうなんですか？

(秋本(代理柴村)委員) 実際、紙類は私共ではやっておりません。ただ、トレイだとか、あとペットボトル、缶、ビンなどリサイクルできるものに関しては、ボックスというものを設置させて頂いて、そこにお買物がてら入れていただければ、私共の方でリサイクルの方に回すということはやっております。

(柏崎会長) 照井さん、その辺はヨーカドーさんは、自社で、その処理していただいているということで、ポイントとかは今のところは、実施していないということです。

(秋本(代理柴村)委員) あと、うまくできるかどうかわかりませんが、全国の店舗によってはペットボトルの回収機械を置いておまして、それで私共の電子マネーnanaco というのをやっておるんですけれども、そのnanacoを媒介してポイントが付くような形での回収する機械を設置しているお店もありますし、これから広めていこうとしております。ですから、企業としてできることは考えて進めてはおります。今、現状はそういう感じでありま

す。

(照井委員) 生協でもやっているそうですし、あと、ヨーカドーさんは、私、生産者ですけども、色々入れてくれているのは有り難いことだと思います。ありがとうございます。

(林委員) 7ページの、平成12年度比約25%削減すると、第三次循環型社会形成がありましてね、これからの話になると思うんだけど、あと30ページの中で、計画に対して、この表16ですね。この表がですね、家庭ごみ、全部、資源化率にしても回収率にしても×で、事業系っていうのだけが○だった。というようなデータですよ。これは国の計画と花巻市が行ってきたこれまでのことと、これから10年にやることによって、ここが×だったことに対して、やっぱり減らしたいというのが目標にあるんだけど、ここがなぜ×だったのかという風な反省をせずにこの計画についてまた話し合っても、また10年同じ結果になるのではないかと私は思う。そこのところ事務局が、国が出した削減計画25%と、この振り返った全然未達だった事実、その辺の分析がどうなっているのかと正直思う。

(柏崎会長) ページが、7ページ。目標が達成されてなかったということに関して、比較して、削減されたということなんです。えっと30ページは、事業ごみを除いて、ほとんど家庭ごみ、それから資源集団回収等が未達。経緯がどうなっていますか。

(事務局：清水課長) はい、ご指摘の通り、削減がうまく進まなかったということについては、こちらの方でも反省はしておりますけども、ただこの10年間の中で、人口の割に減らなかった理由については、社会経済が上振れた影響を受けたのかなと思っております。更には、世帯数が増えているというのは単身、核家族化の傾向にありまして、一世帯におけるごみの排出量につきましてはそれなりに排出されるので、そういう意味では減少に繋がらなかったのかと思っております。その対策については、減量化、資源化については逐次市民の皆さまにご理解いただくように努めては来たと思うのですが、数字には表れてなかったというのがあります。ですので、これからの10年間については、新しい取り組みも含めながら、計画の中には施策として盛り込んでいると考えております。前までは横ばいだったんですけども、今年度のごみの状況については、前年比較の3%減ということで、今は推移しているということで、地域に出向いて説明会を開催するなどしてご理解頂いているという風には思いつつ、この計画を作ったところでございます。

(林委員) 国の方からいろいろな施策が出て、地方自治体に25%削減しなさいと上の方から落とし込んでくると思いますが、現場・細部ではやっぱり落とせない。やってみて、減らないんだよと、いうことになると思うんですよ、今の回答ですと。今後10年間の計画を作るにあたって、本気でやるか、やらないかだと言うところもあると思うんですよ

ね。計画作って終わると、そしてまた次の人にトスしてまたいくと、繰り返しがね、まだまだ現状としてあるんだと思われるんです。だから、ここに集まった皆さんと答申してやっていくのであれば、やっぱりある程度本気度を出さないと10年計画はできないと思うし、また10年経ったらまた何も減らなかった、人口は少し減ったけど、消費社会のことだからと言って言い訳に窮するという先が見える感じがする。やっぱり人を動かすためには、どういう風な形であれば人は動くのか。一般の家庭はどうすれば動くのか。子供たちは関心が無いと言うけど、子どもたちの教育の中で、どういう風な子供たちにご褒美を上げたら関心が向くか、家庭でもどういう風にしたら減らしてくれるのか、どこの地区の誰のチームが一番減量したよとかいうことで、花巻市がそういうところにアドバルーンあげて賞あげるとか、そういう風な政策を講じないと、たぶんごみは全然減らないと私は思うんですけど、その辺どうでしょうか。

(柏崎会長) 昨年10月に発足しました、北上の、中部クリーンセンターなんですけど、それが稼働する1年前からですね、私ら公衆衛生組合の関係の方々がいらっしゃいますが、ここが正念場だってことでね、減量化、特に生ごみは簡単なんだから、各家庭が水を切ってくれと。水分あるまま出さずに。まあまだ27年度あと2か月終わってませんが、最後まで頑張るつもりです。

(林委員) 減量に頑張らなきゃならないと思うけれど、さらに個人で減量するとき、そのところに予算を特化して、ただ頑張るのではなく、何をどうして頑張るといふところまで突っ込んでいかないと減量できない。減量することが大事だということをみんな知りながら、減量できないわけでしょう。行政もその辺の事情は分かる。流されていってるといふのが現状だと思うので、そのことについて、もう少し深堀りされたほうがいいんじゃないですか。

(柏崎委員) ありがとうございます。ご意見として伺います。細部については衛生組合でも深堀りしてみます。

(岩淵委員) 19ページのカッコ4。出前講座など啓発活動中です。本気度っていうお話が出ました。それに関連するわけですが、実は先程の説明の中で、振興センター単位で説明会やりましたと、説明ありました。実は地区でサロンを10年以上やってるわけですが、自分たちで20数人集まって月に1回。その参加者の中で、振興センターで説明会やりますと言われてもその時間帯に振興センターまで行けないという方がおられました。それで、出前の方、お願いしてみました。その後、参加した人は非常に意識が変わったって言うんですね。いかに自分たちが紙類全部、ごみに出してたかと。反省したと言っていました。ここにもありますように、あの、紙とか菓子箱ですか。それ私やっぱりね、職

員に来てもらってよかったなと思ったのは、来た職員が持ってきてくれたんですよ。名刺一枚からでも、こういう風にして資源ごみとして出せるんですよと、説明しながら見せてくれたんですね。それ以来「本当なんだな」と思ったという声がすごく多かった。だから振興センターに来いじゃなくて、公民館とかに出向いてくれれば、本当に違うよねと。その時に職員の方は「わかりますが、職員の数も限られております」との回答だった。私もその通りだと思います。職員がすべて歩いてほしいんじゃないんです。だからせつかく振興センターで人を集めてやるのであれば、各行政区から集まった関係者をうまく利用する、そこに来てきちんと話を聞いた人達が各行政区に戻り、自分たちの各公民館で説明していただけるくらいの、そういうあり方がすごく大事じゃないかなと、見せて質問にも身近に答えることが減量につながるのではないかと思います。それが一つ。それから、北上市さんでは有料化を以前からしています。花巻でも、皆さんが気を付けなければ、有料化にもっていかねばならないくらいに切羽詰まっているということを市民に説明してご理解頂いて、ごみ問題に関わってもらうことも大事じゃないかなと私は思います。以上です。

(柏崎会長) 岩渕委員から減量化するのにただやるんじゃなくて、出前講座の内容が明確になっていて有効な講座だったとのことで、私も市の説明会の方には、振興センターで参加しましたが、入りきらないくらい集まりました。5千人いる花北地区で会場が狭かったなとも思いましたが、逆に個別的に町内会で出前講座をやるというのは有効的なところもあるよと、貴重なお話し伺いました。

(岩渕委員) すみません。一つ、教えてください。34ページの課題7の「高齢化に伴い在宅医療廃棄物とありますけども、これは具体的にはどういうものを指しているのでしょうか。もしかしたら高齢者の紙おむつとか、そういう意味に捉えればいいのかなと思ったのですが。そうであるならば保育園のおむつとかはどうなっているか、教えてください。

(事務局：清水課長) 高齢化の介護者の関係ですけれども、おっしゃる通り、寝たきりの方とかの紙おむつ。これが主になります。その他には医療系のゲル状の栄養剤というのもあるようです。今後その対象物は増えるものと思っております。あと、保育所の関係ですけれども、現場で使ったものについては各ご家庭に持ち帰るとということで、集積所に出されてるものと思っております。

(伊藤二郎委員) 今の岩渕さんの質問を聞いて思ったのですが、集積所に排出されるごみについて。なんか増えてるなど。高齢者のおむつなどはまとめて出てるケースもある。我々それを処分するというのはやってませんので、そのまま出している。集積所の容量が多分、今のままだと溢れ出て道端に散らばる可能性もあるなど。この辺は今から用心していかないと大変なことになるのでは、そう思って聞きました。

(柏崎会長) 今の伊藤委員からの言葉は、やはり高齢化に伴っておむつなどのごみの関係が増えてるとのこと。

(事務局：清水課長) ごみのなかにそういったものが増えてるといふ現状はあると思っております。ただこれは昔でいえば、おむつを洗うというのがあったが今はそういう時代でもないので、致し方ないことで捉えております。

(柏崎会長) 集積所が満杯になってるといふことは、その辺どうなんだろう。伊藤さん。

(伊藤二郎委員) ケージ型のごみ集積かごあるでしょ。それを大きいもの2つ使ってます。あれだとすぐ溢れます。それを私が宣伝するわけではありませんが、しょうがないから私が引き上げて、小出しにするとかね。今後誰かが何か動き出さないとダメかなと思います。

(柏崎会長) 個別の話を出すわけにもいきませんが、高齢化に伴う排出物が多くなってきたことは、次の衛生組合の議会で、次の審議会で大まかなところを出していただけると。伊藤委員、よろしいでしょうか？時間にこだわるわけではありませんが、今発言以外の方ご質問。第3章について。

(照井委員) すみません、時間があれで申し訳ないのですが、33ページの生ごみということですが、「みのりのパートナー」という肥料を利用していますが、この利用状況はどうなってますか。

(事務局：清水課長) みのりのパートナーは、公衆衛生組合の方で、斡旋物資として各世帯を回覧して、情報提供させてもらってるものです。これは市全域ではなく、公衛連の組合さんの方で希望のあるとこだけなので、パーセンテージからいうとかなり低い状況ではあります。希望なさる組合さんについては、継続して来年も取り組むということで決めましたが、利用率については把握できておりません。

(柏崎委員) 照井委員、よろしいですか。その他ございませんか。後でも結構ですので、発言していただければと思います。では第3章第1節ですが、皆さんのご了解をいただいたことよろしいでしょうか。(委員から「はい」の声あり) それでは第3章第2節に入ります。ごみ処理量の予測の説明をお願いします。

～(事務局：清水課長)「第2次花巻市一般廃棄物ごみ処理基本計画(素案)」の第3章第2節の説明～

(柏崎会長) ただいま、第2節ごみ処理量の予測、いろいろ出ております。36ページか

ら40ページ、これについて皆さんのご意見を伺いたいと思います。

(林委員) 38ページの推計値ですね。家庭ごみの減少1.44、事業系ごみが4.35、というのは3倍の減少率を見ておりますが、これは何をベースに作成されているのですか。

(事務局：清水課長) ベースは過去5年間の排出量をベースに作っていて、いろいろ推計方法がありまして、その平均で、最終的にはルート式で推計したものをとっているんですけども、6～7本の推計の平均がルート式になったということで推計しております。ベースはいずれも過去5年間のものです。

(林委員) 数値の上では理解できるが、それはあくまで回帰曲線の話で、家庭ごみと事業ごみの3倍の差はどこから来るのか。どこから作り出されているのか。人間のやることだからそこに仕掛けがあるんでしょ。

(事務局：清水課長) ここで数値の調整は、家庭系が少ないだろうから少ない、事業系が減少率が大きいだろうという意味で調整しておらず、全体のごみ排出量から家庭系ごみ、事業系ごみと2つは分けているので、分けている中での推移から持ってきています。

(林委員) しつこいようですが、過去のデータから、このようなことが引き出されたと。単純に。もうちょっと突っ込んでみれば、家庭系と事業系には3倍の差がある。

(事務局：清水課長) 現状でそのくらいの差があるということです。

(林委員) そこから私が考えることは、事業者っていうのはマネジメントシステムを導入しているからなの？例えば一般の家庭では、マネジメントシステムが無いから落ちてないのかとか、そういう風なところまで突っ込んだ予測なんですかねってのを聞きたかった。人のやることだから、過去こうだから未来がこうということは無いんだけども、それにしても落ちた理由が何かあるんでしょう。3倍も違うということは。そのところの分析がされているのか。

(竜田) 環境省の方の、基本計画の策定の時に、トレンド法で過去の推定から全部出せという形の規定がありますので、5つ6つの計算式で出してますけども、その中で関連のいいものをとっているというだけの話で、間違いはないです。

(事務局：清水課長) 突っ込んだところまで勘察しておりませんでした。単純に数字の実績です。

(林委員) 突っ込んだところまで解析してほしかったですね。

(山影委員) 今の話の参考情報として、一部事業者として話をします。温泉旅館業として、今の話を補強するわけじゃありませんが、一部事業者の中でですね、過去5年間というのは、所詮、震災後の5年間ということになりますよね。観光事業に関しては、特に地方、かなり悪化しているという状況。簡単に言えば観光客が減っている。いろいろな事象がありますが、そういった特有なことも考えられるかなと参考までに。

(林委員) まぁファクターの一つとしては考えられますよね。逆になぜ事業者は減らせて、一般の方は減らせないのかというようなヒントになるんじゃないかなと思うんですね。そこをもうちょっと突っ込んで、過去のトレンドはこうだから、未来はこうなるのではなくて、そこに仕掛けがあって、例えば花巻温泉だって ISO やってるとか、子ども達にもキッズ ISO とか、いうことを進めてかなきゃいけない、社会教育として、子供教育から始めないといけないといった仕掛けの事を知りたかったなっていうことです。

(柏崎会長) 大変貴重なご意見でした。その他ありませんか。(委員から「はい」の声あり) じゃあ、これで第3章第2節ご了解いただけたということで、よろしく願いいたします。続いて第3節ごみ処理基本計画、41ページです。事務局提案をお願いします。

～ (事務局：清水課長) 「第2次花巻市一般廃棄物ごみ処理基本計画(素案)」第3章3節の説明～

(柏崎会長) 41ページから第3節ごみ処理基本計画、事務局の方から提案ありました。これについて皆様のご意見を伺いたいと思います。

(高橋文一委員) 47ページの施策4リサイクルの推進というところで、私も事務局しとるのであれなんですけど、県の平均と比較してリサイクル率が低いという表現になってますけども、具体的に何の部分で平均を下回っているのかを把握されているのであれば教えていただきたいですし、我々がご協力できることがあればそれも仰っていただきたい。

(事務局：清水課長) 低いという要素につきましては、事務局としますと集団資源回収もやってますし、事業者さんからの直接持ち込みとかしているんで、そんなに低くはないんじゃないかなとは思っていたんですが、数字だけで言うと、ちょっと低いという状況にあるんですが、その要因については分析ができていないです。

(高橋文一委員) 例えばですよ、衣類が去年か、いや今年か。それでリサイクル率が上がってるっていう状況は・・・

(事務局：清水課長) それはあると思いますが、結局、今までは単純に捨てたものを資源として回収してます。なので、事務局とすると、小型家電・電子機器の取り組みもしてますから、他の団体よりも多くなってるんですけど。ただ懸念されるのが、集団資源回収の量は、ちょっと右肩下がりです。先程のスーパーさんなどの店頭回収も進んでいるのかなとは思ってますけども、そういった数字的な部分だけで言うと、ちょっと下がっているだけで、他団体よりも低いということはあるんですが、要因がちょっと掴めかねています。

(高橋文一委員) できれば、その要因が他市町村との比較の中でここを強化すれば上がるというようなのが明確なものがあれば・・・

(清水生活環境課長) 取り組めるものは全て取り組んでいるつもりなんですけども。なぜかこのような状況です。

(柏崎会長) その他、第3節基本計画。どの項目も重要ですけど。

(林委員) 43ページの数値目標にこだわるんですけど、これからですね本計画でのごみ減量に係る目標は表20のとおり設定しますとありますよね。ここに来ていただいている委員の皆さんにお聞きしたいんですけど、こういう書き物に描いてますけども、これらは実現可能なんでしょうか。

(柏崎会長) まず林委員からのですね、43ページの数値目標について、率直な地区の現状とか数値目標どうなのかっていう事を皆さんの方からお伺いしたいと。最初はいままで発言なさってない方、どちらでもよろしいのでその辺、どうですか、地域とか町内会についてですが。語っていただければ。今の質問者の方に現状についてお話しいただければと思います。

(熊谷委員) 私コミュニティの方では、こういったことも考えて活動しているつもりなんですけども、やはりここにいう問題は地域でやはり関心を持ってアクション起こすということなんじゃないと、計画で云々という話をここでしてもですね、前へ進まないと思うんですよ。やはり地域によって問題化して、それぞれ地域代表でいらしてる方ですから、こういったようなことを地域で、または職場で、やっぱり問題化して、アクション起こす、これ以外にないと思うんですけど、いかがでしょうか。

(柏崎会長) 熊谷委員から地区の現状は、やはり、地域で啓発していくということなんです。

(林委員) 私の意見、考え方からすると、ブロック単位で頑張っても花巻市全体として頑張っていないと地域で頑張っても限界があるでしょう。どういった人達が基軸、中心となってこの数値目標に向かっていくという仕組みがないと、私は落とせないだろうと思う。地域の人がついてこないとか、やったとしてもその地域だけだったり。これは花巻市全体の計画なんだよね。これから市長さんに答申して、市議会に行ってどうするのかというところまで、いつも計画が出てくるけども、なぜ、達成してこれなかったのかというところまで深掘した考え方をしないと、一人一人が頑張るのもいいけれど、花巻市民全体がその方向に向かうみたいな数値目標であればいいだろうけど、石鳥谷地区のなんとかというところだけとか、例えば花巻地区のなんとかというところだけでは目標達成できないと思いますよ。

(柏崎会長) 熊谷委員のほかに発言されていない方々、減量について、地域の実態について報告していただけますか。

(岩館委員) 地域の実態は私にはわからないが、私個人のところですが、例えばお菓子のケースが資源になっていたことは、そうなんだと。要らないものは要はごみという形で捨てていたんですね。資源回収となった時に、コピーの紙だとか再利用の形にするのであれば、捨てるごみの内容はあったかな。燃えるごみ、燃えないごみとペットボトルみたいな分け方しかないじゃないですか。紙を再利用するのであれば、その内容の分け方もあるべきではないのか。ないのでつい燃えるごみとして捨てていた現状で反省しているところ。本当にごみを少なくするのであれば明確な区分けができれば、さらに回収する日も決めていただければいいのかなと。

(下坂委員) 今のと関連してですし、今まで自分は分別がはっきりわかっていなかったことがわかったんですけど、最近会った人と話した時に、新聞を入れる紙袋みたいなものを活用して、各サイズの紙も入れて、小さなごみになりそうな紙も捨てないで分けている人もいたので、収集する紙袋みたいなのがあれば資源に活用できるのではないかと思います。

(事務局：清水課長) 花巻市の通知文書が行くと、このような封筒が行きますよね。これを利用してもらって入れてもらえば、とっても理想的だなんて思っています。ただ、量が多くなると大変なので、デパートなどの買い物袋に入れて、最後に紙ひもで縛って出してもらえれば雑紙として全部再利用できますので。

(下坂委員) 発想の転換ができない、思いつかないことがあるので、細い次元の低いことで申し訳ないんですが、先ほども出しましたが、そのごみの分別の仕方を外向いて説明する

会があればいいなというのがありましたけれど、それをわかりやすく皆に印象付けるような劇方式と言うと変ですけど、皆からも注目されるような市の取り組みを行ってもらえれば良いのではないかと思いますし、そのようなことをしますので地域の方でも是非活用してごみ減量の対策に利用してほしいとPRしていただいて、地域がそれを活用すればごみの減量も早まるのではないかと思います。

(岩渕委員) 先ほど話のあった目標達成するためにはということで、それぞれの役割というのが最後の方にありますよね。この役割をきちっとそれぞれが受け止めなければならないと思いますし、それをしていくためには行政指導が大事かなと。この3つが連携を取っていかなければ何もならないんじゃないかと思しますので、是非、それを強く希望します。それから今お話しがあったように、今ここに来てごみの分別云々の話がありました。まさに出前講座がまだまだ知られていないことを行政はしっかりと受け止めるべきではないか、力を入れていただければと思います。

(佐々木委員) 1ステーションの水切り、1ステーションで1リットルの水切りを行えば、もう少し、ごみの減量出来るんじゃないかと思えます。

(柏崎会長) ごみ減量の“い”の一番は水切りであると取り組んでいるつもりでいます。時間を気にする訳ではありませんが、減量基本計画、林委員、目標としてですね、活用、提案していきたいと思えますがよろしいでしょうか。

(林委員) 次回もあるでしょうから、問題提起として。

(伊藤二郎委員) 文案を見て感じるのですが、これに限らず公的に出てくるものは長すぎますね。箇条書きにすれば、もっと短くなるのではないのでしょうか？箇条書きが良い。事務局にはお骨折りをお願いすることになるのですが、ご検討ください。

(事務局：清水課長) 計画(素案)は、56ページですけども、概要版という形です。そちらは箇条書きになっていますので、次回、概要版(箇条書き)の形でお示したいと思えます。

(伊藤幸人委員) 目標値を達成したいということだが、目標達成に向けて、我々委員も目標達成に向けて努力していく必要があります。熊谷さんの言うことは地区、地区でやっていけばいいのかなと。45ページの啓発のことで聞きたいんですが、イベント、行事等が出るごみの量は多いと思えます。これから国体や神楽の全国大会があり減る要素はないと思えますけど、農協まつりとか市が行う神楽大会とか国体で出る大量のごみは関係者とか

係の人がやるのか、業者に頼んでやるのかよくわかりません。あと小さな地域の公民館とか集会所単位でいろいろな行事をやっているわけだが、人が多いと分けないで袋にそのまま入れて、地区のごみ集積所に出している。館長の任期は1年だから意識がない。出前でコミュニティ単位で館長なり婦人部の人を集めて啓発をやっていく必要もあると思います。全国大会で出る大量のごみは誰の責任で処理するのか。出前で人を集めて啓発をやっていく必要もあると思います。

(事務局：清水課長) 大きなイベントでは主催者が責任を持ってごみを処分するということになると思います。処理の仕方は様々だと思いますが、市のイベントを見ても、ただ燃えるごみにしているような感じも見受けられるので。最初から紙は紙で別のものに入るような区分をして、普段から取り組まないみんな燃えるごみになってしまうとの実感があります。

(岩館委員) 花巻まつりでお弁当が出るが、上町だと残飯は残飯、弁当殻は全部重ねていく。そうすると30人50人の団体ですが、ごみは少しになる。徹底している。分けなくて集めてしまうと袋が3つも4つにもなる。大きなイベントだから出来ないということではないと思う。徹底することが大事である。

(柏崎会長) この辺でですね。減量の項目閉めたいと思います。よろしいでしょうか。(委員から「はい」の声あり) ありがとうございます。

(事務局：清水課長) 56ページ、計画の推進体制についてですが、ごみの減量を推進するというのが第1でございます。それについては、住民、事業者、行政と一緒にあって効率的、効果的な推進をしていきたいと思っております。計画の進行管理につきましては、毎年PDCAの中でチェックしながら、実績を見極めていきたいと思っておりますし、そし計画の点検評価につきましては、年度ごとに実施しながら、その結果を市の広報やホームページで公表するなどしていきたいと思っております。

(柏崎会長) 第4章は進行管理ということで、皆様のご了解をいただきたいと思っております。よろしいでしょうか。(委員から「はい」の声あり) 議事の第2次花巻市一般廃棄物(し尿)処理基本計画(素案)について、事務局提案をお願いします。

～(事務局：清水課長)第2次花巻市一般廃棄物(し尿)処理基本計画(素案)について説明～

(柏崎会長) 花巻市一般廃棄物(し尿)処理基本計画は、おおまかにですね公共下水道、農業集落排水、浄化槽、コミュニティプラント、大きくこの4つに分かれるわけがございます。ただ、今現状と将来の38年度の目標が提示されています。これは議論されるもので

もないので、ご了解ください。(委員から「はい」の声あり) ありがとうございます。

以上の議論の中で多くのご意見が出されました。皆さんから出されたご意見は次回の審議会に報告があると思います。良い審議会であったと思います。どうもありがとうございました。

(事務局：清水課長) 本日の協議内容を整理して次の審議会までに送付させていただきたいと思います。併せてパブリックコメント内容についてもご報告させていただきたいと思います。事務局サイドの考えといたしまして、本日のご議論の内容を整理したうえで、案とさせていただきたいと思いますが、いかがなものでしょうか。次回、素案を案としてお諮りさせていただいてその案を市から諮問させていただきたいと思っております。次回は3月8日火曜日午前9時30分を予定しているところですが、諮問させていただきまして異論がない場合は答申したいという風に進めたいと思っておりますが、不十分となれば、再度ご議論をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。(委員から「はい」の声あり)

(柏崎会長) 事務局から次の審議会について、今回の意見の反映のされ方について説明がありました。我々の意見は反映されると思いますので、ご了解いただければと思いますが、よろしいでしょうか。(委員から「はい」の声あり) よろしく願いいたします。

6 閉会

柏崎会長ありがとうございます。これをもちまして花巻市廃棄物減量等推進審議会を閉会致します。長時間にわたってご議論いただき、ありがとうございました。